

開局の準備へと(その1)

Ver-01 に続き、開局の準備です。

01の最後にも書いた通り、誰しもが最初からベテラン局では有りません。 先ずは、どの程度の規模で運用するか?です。 取り敢えず、皆さんの話が聞こえる様にしましょう。 アマチュア無線には、周波数によって電波の届く範囲が有ります。

周波数が低いと電波の届く範囲が広く、遠くまで届く事に成ります。 周波数が高く成りにつれ、電波の届く範囲は近く成ります。 何故かは、後々のページで参考下さい。 又、電波の様式も色々有って、この様式を電波のモードと呼びます。 モードには、アナログ通信の範囲や、デジタル通信の範囲で細かく、分けられています。 CW、いわゆる、「トントー」と言われるモールス信号電波で、記号を覚えなくては使えません。これは、資格によって使えない事もあり、第3級以上の資格が必要です。

他にも、モードはSSB、AM、FM、等のアナログモードから、デジタルモードと色々有って、使用する周波数の範囲も決められて居ます。 SSBには、LSB(シングルサイドバンド)とUSB(アッパーサイドバンド)と2種類が有り、これらも、使用する周波数範囲が、法的に決められて居ます。 運用する上で守るべき事ですから、覚えて下さい。 低い周波数から高い周波数の順に、HF帯、VHF帯、UHF帯、SHF帯と成ります。

此の事は資格を取る時の勉強でお判りと思いますので、省略をして、本題に戻ります。 手軽に電波を聞いて、電波を出す事を考えると、取り敢えず、近くの地域での、VHF帯、144MHz、又はUHF帯、430MHzのFMモードのバンドが有ります。 これは、設備に伴う無線機やアンテナ他が手軽に手に入るからだと考えます。

144MHzや430MHz帯の無線機で有れば、1台で両方使えるハンディー機が手ごろな価格で買い求める事が出来ます。 アンテナとして別に設備する必要も無く、無線機に付いて居るアンテナだけで、電波は飛んで行きます。 最近ではポケットに入る程度の小型の物も有り、チョコット出かけると言った時にも手軽に持ち運びが出来る便利さが有ります。 別の大きなアンテナにつなげば、より遠くまで電波が届きます。

次に、モバイル機と言われる、車に取り付ける事が出来る無線機です。 電源は車のバッテリーから利用出来ます。 ドライブ中、道に迷った場合とか、目的地が判らないとかの場合、電波を出して、道を尋ねたり、走りながらも、会話を楽しむ事が出来ます。 アンテナは車に取り付ける必要が有りますが、取り付ける為の機器はショップに売られて居ます。 この無線機は、車から取り外して、家の中でも使う事が出来ます。 家の軒先に、アンテナを取り付け、電源は、AC100vから、DC13, 8vに変換出来る、AC/DCコンバーター(安定化電源器)と言う物が有り、これを使って、家の中からも運用が可能です。 取り付けるアンテナによっては、遠くに電波を飛ばすことも可能です。

これらの無線機は、FMと言うモードを使用した無線機でしたが、モバイル機にはオールモード機と言われる無線機が有ります、少し価格は高く成りますが、CW、SSB、FM、と言ったモードの電波を出す事が出来ます。 一般的に、FMよりSSBの電波の方が遠くまで飛ばす事が出来ます、又、SSBよりCWの方が遠くにと成り、使用する電力も少なくて済みます。

取り敢えずは、電波を出す事も、聞く事も出来る準備が整いました。 先ずは、皆さんがどの様な事を話して居るのか、どの様な話し方をして居るのかを、聞いて(ワッチと言います)見ましょう。 お友達同士の話で有れば、他愛のない(失礼)話や世間話? そんな中にも、無線用語が飛び交う事が有ります。 最初は何を言ってるのか判らない事も有りますが、話の前後内容から、大体の意味も掴める様に成ります。 聞いて(ワッチ)居れば、中には、暗号の様な「ローマ字語」で「CQ, CQ, ..」なんて聞こえて来ると思えます。これは、交信する相手局を探している時に聞こえる言葉です。 では、マイクを握って勇気を出して、第一声を出して見ませんか? 次回は第一声と、他のバンドについてです。